

第1号報告

令和元年度 事業報告書

第1 はじめに

令和元年度は、文字どおり元号が平成から「令和」に改まり、日本をはじめ世界中で激動の幕開けとなった。核兵器をめぐる国際情勢においても、依然として厳しい状況が続き、その混迷はますます深まっていった。

6月30日、G20大阪サミットに出席していたトランプ米国大統領が訪韓し、「板門店」で米朝首脳会談を行ったが、その後も朝鮮半島の非核化交渉は大きな進展を見せることはなかった。

11月24日、ローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇が38年ぶりに長崎市を訪れ、爆心地公園で核兵器についてのメッセージを発表した。

「核兵器から解放された平和な世界。それは、あらゆる場所で、数え切れないほどの人が熱望していることです。この理想を実現するには、すべての人の参加が必要です。個々人、宗教団体、市民社会、核兵器保有国も非保有国も、軍隊も民間も、国際機関もそうです。核兵器の脅威に対しては、一致団結して応じなくてはなりません。」

(カトリック中央協議会HPより)

しかしながら、本年1月に発表された「終末時計」は20秒進み、地球滅亡まで残り100秒となった。昨年、中距離核戦力(INF)全廃条約が破棄され、さらに本年2月にアメリカ海軍の潜水艦に小型核兵器が実戦配備されることが発表されるなど、核兵器使用のハードルが大きく低下することになった。

さらに、12月に中国の武漢市で発生した新型コロナウイルスは、瞬く間に中国から世界中に感染拡大し、日本でも感染者が増加したことにより、4月17日、日本政府が全国を対象に「緊急事態宣言」を発表するまでに至った。

当協会においても、本年2月後半から「被爆体験講話」の中止及び延期の連絡が入りはじめ、当協会の関連事業も中止又は延期することになり、3月13日に予定していた通常理事会も「書面決議」で実施した。

なお、令和元年9月1日から長崎原爆資料館等に指定管理者制度が導入されたことに伴い、これまで長崎市から当協会が受けていた業務委託(観覧受付・総合案内・図書室)を廃止し、原爆資料館の売店事業も指定管理者へ移行した。

第2 令和元年度の事業

「第1 はじめに」に記載のとおり、「2 長崎原爆資料館運営事業(原爆資料館原爆・平和総合案内業務)」「3 長崎原爆資料館図書資料収集整理事業」は、令和元年8月31日をもって廃止したために、当協会の事業は、公益目的事業である「1 平和推進事業」「4 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業」「5 収益事業(図書等販売)」の3事業となった。併せて「5 収益事業(図書等販売)」については、インターネット販売及び直接販売を行った。

令和元年度の各事業の実施状況は、次のとおりである。

1 平和推進事業

「核兵器の廃絶」と「世界恒久平和の実現」に向けて、平和への認識をさらに深めてもらうために、財政基盤の確立と円滑な事業運営を図りつつ、次の事業を実施した。

(1) 発刊事業

ア 会報「へいわ」の発行

当協会の事業活動をはじめ、平和に関する動きなどを、会員・理事・評議員等に情報提供するとともに、会員相互のコミュニケーションを図るための機関誌である会報「へいわ」を発行した。併せて多くの人が会報を閲覧できるよう協会ホームページにも掲載した。

・年4回発行（令和2年3月末現在165号、1回あたり3,000部発行）

イ ブックレット「平和のあゆみ」の発行

平和を考えるときの参考資料として活用できるよう、前年度の協会事業を中心に、平和意識高揚のための取り組み、活動状況、実施状況等をまとめたブックレット「平和のあゆみ」を作成し、協会役員、関係機関等へ送付した。

・年1回、2,000部発行

ウ 広報活動

情報BOX、会員勧誘リーフレットの増刷・発行及び刊行物等の発送用封筒の増刷を行った。

また、LINE公式アカウントに登録し、毎週月曜日にイベントなどのお知らせを発信している。（現在、登録者90人）

- ・情報BOX（毎月300部発行）：協会役員、各部会員、平和案内人等へ郵送
- ・会員勧誘リーフレット：会員拡大のため図書販売コーナー、原爆資料館、追悼平和祈念館に設置・配布、イベント開催時に配布

(2) 平和意識の啓発事業

ア 平和学習

平和学習に取り組む小中高校や一般団体などから依頼を受け、自らの被爆体験を語り、平和の大切さを伝える被爆体験講話者（継承部会員）を派遣した。修学旅行などで長崎を訪れる長崎県外の学校・団体からの申し込みが多数であるが、海外からの団体や、長崎県や長崎市内の小中学校などにも講話を行っている。

新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年2月後半予約分から3月末まで30件（人数4,014人）の被爆体験講話が中止及び延期となった。

<被爆体験講話の実績（学校・団体）>

区分	実施件数	受講人数	摘要
平成28年度	1,227件	151,591人	熊本地震
平成29年度	1,253件	162,688人	
平成30年度	1,191件	147,416人	
令和元年度	1,168件	140,113人	新型コロナウイルス

<令和元年度の内訳>

区 分	実施件数	受講人数
小学校	539(65) 件	49, 631(17, 643) 人
中学校	336(29) 件	42, 183(5, 245) 人
高等学校	210(4) 件	40, 368(941) 人
一 般	83(19) 件	7, 931(4, 983) 人
計	1, 168(117) 件	140, 113(28, 812) 人

()内は、長崎市内の受講団体数・受講人数を内数で示す。

(7) 被爆体験講話者の派遣（県外 8 自治体、2 団体からの依頼）

派遣先：大阪府八尾市、宮崎県日向市、和歌山県有田市、山口県柳井市、兵庫県神戸市、千葉県浦安市、神奈川県藤沢市、徳島県徳島市、鹿児島県鹿児島市、新潟県柏崎市

(イ) 被爆体験講話者派遣事業（長崎県主催事業）

派遣先：大村市、川棚町、佐々町、平戸市、南島原市、対馬市、西海市
 県外大学：佐賀大学、九州大学

イ 原爆被災写真パネル・DVD（ビデオ）の貸出

修学旅行などの事前学習や写真展などの開催に役立ててもらうために、原爆被災写真パネル・DVD（ビデオ）を無料で貸し出した。

<令和元年度の貸出状況（無料）>

区 分	写真パネル		DVD（ビデオ）	
	件数	セット数	件数	本数
小 学 校	5	5	10	19
中 学 校	1	1	16	37
高等学校	3	3	23	49
一 般	9	9	21	47
計	18	18	70	152

ウ 講演会の開催

会員及び市民に、平和についての認識を深めていただくために、講演会等を実施した。

(7) 映画上映と出演者でもある林家三平氏による特別限定高座を行った。

・演 題：「戦争と演芸（へいわ）」

第 1 部：映画上映「サクラ花」

第 2 部：特別限定高座「出征祝（国策落語）」林家三平

・開催日：令和元年 7 月 17 日（水）18：30～21：00

・会 場：長崎原爆資料館ホール

・入場者：約 340 人

(イ) スーザン・サザードさんの「ナガサキ核戦争後の人生」の日本語版出版を記念して、スーザン・サザードさんと語る「朗読会と家族の思い出」を開催した。

- ・開催日：令和元年11月9日（土）13：30～15：00
- ・会場：追悼平和祈念館交流ラウンジ
- ・入場者：約120人

エ 国連軍縮週間行事「市民のつどい」

「国連軍縮週間（10月24日～30日）」には、世界各国で様々な行事が行われている。長崎市が毎年開催する「市民大行進」に合わせ、協会では、会員や市民の協力をいただきながら「戦時食コーナー」、継承部会による「エコ風船コーナー」、国際交流部会による「折り鶴コーナー」、写真資料調査部会による「原爆写真展示コーナー」、音楽部会によるミニコンサート等の各コーナーを設けた「市民のつどい」を開催している。

- ・開催日：令和元年10月26日（土）10：00～13：00
- ・場所：原爆資料館前階段下広場
- ・来場者数：約2,000人

オ 「県外原爆展」

長崎県外の方々に、原爆の悲惨さや平和の大切さを知ってもらい、長崎市民の核兵器廃絶への願いを伝えるために、開催都市と長崎市が共催で原爆展を開催するもので、令和元年度から当協会が、長崎市から委託を受け運営主体として実施。期間中、継承部会員による被爆体験講話と写真資料調査部会員による写真解説を行った。

<令和元年度県外原爆展の開催都市>

和歌山県 有田市	開催時期	7月4日～7月5日（2日間）		
	展示会場	箕島小学校、保田小学校	原爆展見学	420人
	体験講話	上記小学校で1回ずつ（2回）	講話受講者	280人
山口県 柳井市	開催時期	7月29日～8月2日（5日間）		
	展示会場	柳井市文化福祉会館	原爆展見学	260人
	体験講話	上記会場（2回）	講話受講者	60人
徳島県 徳島市	開催時期	1月27日～1月30日（4日間） （体験講話は10月23日）		
	展示会場	徳島市役所	原爆展見学	716人
	体験講話	徳島市立上八万中学校（1回）	講話受講者	44人

(3) 調査研究

ア 国際平和シンポジウム出席

- ・派遣期間：令和元年7月27日～28日（1泊2日）
- ・調査施設：広島国際会議場

・研修事項：広島市で開催された「国際平和シンポジウム」に出席するとともに、昨年5月にリニューアルされた広島原爆資料館を視察し、同館長等と意見交換を行った。

イ 映画「祈り～幻に長崎を想う刻（とき）」の撮影協力

- ・派遣期間：令和2年2月7日（日帰り）
- ・派遣場所：東彼杵郡川棚町「川棚魚雷発射試験場跡」
- ・撮影協力：被爆75周年を記念して、長崎市出身の劇作家、田中千禾夫氏の「マリアの首」を原作に映画化が決定。当協会も長崎県内でのロケ等に協力した。

（4）育成事業

ア 部会活動

協会会員で組織する各部会が自主的な活動を行った。

(7) 継承部会（44人）：計7班の調査・協議等に係る自主活動費

- ・被爆者が英語で語る「英語研修班」や被爆継承をさらに進めていく「被爆体験の深化講座」を開催した「継承交流班」などの活動

(4) 写真資料調査部会（9人）：被爆写真や資料の収集・分類整理

- ・令和元年度も、長崎市から国立公文書館資料検証業務を受託

(9) 国際交流部会（27人）：文書の翻訳、外国人来訪者の通訳・案内

- ・「外国人と長崎市民の集い」などを開催

(8) 音楽部会（18人）：平和関連音楽会の企画・実施、演奏活動

- ・「市民のつどい」のミニコンサートなど参加

(6) ボランティア傷害保険、資料印刷制作費、通信運搬費、会議費等

イ アジア青年平和交流事業

協会設立20周年を記念して平成15年度から開始した本事業は、平成23年度以降、長崎県内の大学生や高校生等の自主企画を対象に公開の審査会により選ばれた企画を「アジア青年平和交流事業」として認定し、当協会から業務委託する「企画立案型」として実施している。

令和元年度は、長崎県内の大学生や高校生などの自主企画の2事業を認定し、協会及び追悼平和祈念館の各事業とも連携して若者の取り組みを広く内外へ発信した。なお、3月15日（日）に予定していた成果報告会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止し、報告書の提出に切り替えた。

- ・発表・審査会 令和元年9月7日（土）〔追悼平和祈念館交流ラウンジ〕

- ・事業内容

① 長崎県立大学シーボルト校金村ゼミ「Peace Piece プロジェクト」

文字や写真で平和を伝える「平和カレンダー（年度）」を作成し、配布した。

② 長崎純心大学「Green Pieces」

外国人と一緒に平和を考える「Peace Forum（ピースフォーラム）」を追悼平和祈念館交流ラウンジで開催。長崎の高校生、大学生20人と外国人25人（日本以外16か国）が参加した。

ウ 平和事業支援（共催・後援事業）

協会の活動趣旨と合致するシンポジウム、音楽会、外国人弁論大会などの活動に対して、令和元年度も共催・後援及び助成を行った。

- (ア) 「未来のいのち国際サミット2019 in 長崎」後援
 - ・開催日：平成31年4月20日〔長崎大学医学部 良順会館〕
 - ・主催：にこにこ一般財団法人
- (イ) 「第11回 ～語り合おう in Nagasaki～外国人による日本語弁論大会」共催
 - ・開催日：令和元年6月15日〔追悼平和祈念館ラウンジ〕
 - ・主催：外国人による日本語弁論大会実行委員会
- (ウ) 「第31回 ながさき平和大集会」共催
 - ・開催日：令和元年6月16日〔原爆資料館ホール〕
 - ・主催：核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会
- (エ) 映画「あの日のオルガン」長崎県上映運動について 後援
 - ・開催日：令和元年7月から令和2年3月〔長崎県内全市（文化施設他）〕
 - ・主催：映画「あの日のオルガン」を長崎県内に広げる会
- (オ) 「長崎平和アートプロジェクト（ナヘア）」後援
 - ・開催日：令和元年7月20日から8月31日〔原爆資料館他〕
 - ・主催：長崎平和アートプロジェクト
- (カ) 紙しばい発表会
 - ・開催日：令和元年7月21日〔原爆資料館 平和学習室〕
 - ・主催：紙しばい会
- (キ) 「第34回 長崎平和音楽祭」共催
 - ・開催日：令和元年7月27日〔長崎市平和会館ホール〕
 - ・主催：長崎平和音楽祭実行委員会
- (ク) 国際平和シンポジウム2019「核兵器廃絶への道」後援
 - ・開催日：令和元年7月27日〔広島国際会議場〕
 - ・主催：朝日新聞社他
- (ケ) 「第66回 長崎原爆忌平和祈念俳句大会」後援
 - ・開催日：令和元年8月3日〔原爆資料館 平和学習室〕
 - ・主催：長崎原爆忌平和祈念俳句大会実行委員会
- (コ) 「第2回長崎平和祈念茶会」後援
 - ・開催日：令和元年8月4日〔原爆資料館 いこいの広場〕
 - ・主催：（一社）茶道裏千家淡交会長崎支部
- (サ) 「2019 ピースアクション in ナガサキ 虹のひろば」後援
 - ・開催日：令和元年8月8日〔長崎市民会館 文化ホール〕
 - ・主催：日本生活協同組合連合会他
- (シ) 「被爆74年 連合2019 平和ナガサキ集会」後援
 - ・開催日：令和元年8月8日〔長崎県立総合体育館 メインアリーナ〕
 - ・主催：日本労働組合総連合会

- (ス) 「第 57 回 原爆忌文芸大会」後援
 - ・開催日：令和元年 8 月 10 日〔長崎ブリックホール 2F・3F〕
 - ・主催：NPO 法人長崎国際文化協会
- (セ) 「川村奈美子ピアノリサイタル～平和を願って～」後援
 - ・開催日：令和元年 11 月 9 日〔長崎市 NBC ブリックホール〕
 - ・主催：(一社) アルテ・クラシカ協会
- (ソ) 特別市民セミナー「歴史と向き合う 被爆地から学んだこと」後援
 - ・開催日：令和元年 11 月 10 日
- (タ) 「第 41 回平和の使者クリスマスカードコンテスト」後援
 - ・開催日：令和元年 11 月 28 日から令和 2 年 2 月 26 日〔長崎市 YMCA 他〕
 - ・主催：長崎 YMCA、長崎ワイズメンズクラブ
- (チ) 「NAGASAKI Love & Peace Message2019」後援
 - ・開催日：令和元年 12 月 15 日
 - ・主催：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
- (ツ) アジアの若者による平和ネットワーク構築 (APN) 共催
 - ・開催日：令和 2 年 2 月 10 日から 12 日
 - ・主催：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
- (テ) NPT 再検討会議にむけた学習講演会 後援
 - ・開催日：令和 2 年 2 月 8 日・9 日
 - ・主催：長崎市立図書館・アルカス SASEBO

エ 秋月グラント（助成制度）

協会創設者の一人で初代理事長の故・秋月辰一郎氏の名を冠した「秋月グラント」として、令和元年度は、次の事業を支援した。

(ア) 長崎おり鶴再生画用紙子ども絵展

被爆地広島・長崎に贈られた折り鶴を使った再生画用紙に、国内外の子どもたちが平和を願って描いた絵の展示会などを開催した。

- ・助成先：長崎おり鶴再生画用紙子ども絵展実行委員会
- ・実施日：令和元年 7 月 27 日～8 月 31 日〔長崎原爆資料館、長崎ブリックホールほか〕

(イ) 長崎の被爆証言運動を振り返る

長崎の証言の会設立 50 周年を記念し、記念誌の作成・発行を行った。また、証言運動や被爆体験の継承に関わる人々を呼びかけ、50 周年記念の集いを実施した。

- ・助成先：長崎の証言の会
- ・実施日：令和元年 5 月～令和元年 12 月 15 日〔長崎原爆資料館、長崎ブリックホールほか〕

オ 平和案内人育成・派遣事業

被爆の惨状を知る被爆者も高齢化しており、被爆者の数も年々減少している。このような現状を踏まえ、原爆資料館や追悼平和祈念館、周辺の被爆建造物等のガイドを行う平和案内人の育成・派遣に取り組んでいる。

第1期から第6期まで、現在、平和案内人149人が登録し、活動している。

《第7期育成事業》

被爆75周年を前に第7期生の育成講座を開講し、39人の申込があった。

令和2年5月からの活動開始を目指し、研修を重ねていたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、13回(2月29日)、14回(3月7日)、15回(3月15日)の講座を延期した。活動開始は秋頃を予定している。

《活動内容》

- ・長崎原爆資料館の常駐ガイド(無料)

長崎原爆資料館や追悼平和祈念館の館内を無料で案内

- ・長崎原爆資料館の予約ガイド(有料:1,500円)

事前に申し込みがあった場合、館内を有料で案内

- ・碑めぐりガイド(有料:1,500円)

事前に申し込みがあった場合、平和公園や周辺の被爆建造物等を希望に応じた箇所を有料で案内

《研修活動》

・平和案内人の研修や事務局との意見交換のため、年3回程度の全体会を開催する他、各班の研修を実施している。

・令和元年度は、長崎大学核兵器廃絶研究センター副センター長 広瀬訓氏による「核兵器をめぐる最近の流れ」、カトリック長崎大司教区教区本部事務局長 中濱敬司氏による「ローマ法王の平和メッセージと訪日・来崎の意味するもの」、(公財)放射線影響研究所顧問 中村典氏による「ABCC 放影研の過去と現在」と題した講義を行った。

また、7月上旬には熱中症予防・対策について、大塚製薬の森岡剛氏より特別研修を受けた。

・新型コロナウイルス感染拡大により、3密(密閉・密集・密接)を避けるために令和2年2月後半から平和案内人の活動を中止した。3月末までに常駐ガイド128人、資料館予約ガイド10人(人数51人)、碑めぐりガイド7人(人数56人)の中止となった。

<平和案内人活動実績>

区 分	利 用 者 数				活動人数 (延)
	原爆資料館 常駐ガイド	予約ガイド		計	
		資料館内	碑めぐり		
平成27年度	10,853人	2,867人	18,353人	32,073人	3,617人
平成28年度	9,826人	2,548人	11,424人	23,798人	2,890人
平成29年度	10,950人	1,814人	15,361人	28,125人	3,261人

平成 30 年度	10,629 人	1,661 人	8,965 人	21,255 人	2,581 人
令和 元 年度	8,999 人	2,234 人	8,704 人	19,937 人	2,504 人

カ 語り継ぐ被爆体験（家族・交流証言）推進事業

被爆者の被爆体験を語り継ぐ「家族・交流証言者」を支援、長崎市内に派遣することで、被爆体験の次世代の語り部への継承を推進する。

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館と協働し、国の支援事業として、「家族・交流証言者」を長崎市外（海外を含む）の派遣を行う。

①登録者数及び講話者数（令和 2 年 3 月 31 日現在）

登録者 83 人、うち講話者延 38 人（実人数 37 人）

②講話実施回数

令和元年度 164 件（市内 60 件、市外 15 件、県外 89 件）

③主な事業内容

- ・交流会開催 令和元年 9 月 21 日（土）、23 日（月・祝）
- ・各種研修会の開催（原爆や核についての講座、話し方研修、パソコン研修等）
- ・動画作成（被爆者 2 名分）
- ・審査会の開催 6 件
- ・新型コロナウイルス感染拡大により、2 月 29 日（土）の話し方研修（グループ）は中止した。
また、3 月 12 日（木）、3 月 22（日）の定期講話も中止した。
その他 3 月に、今年度新たに講話者となった方のデビュー講話を実施することができなかった。

キ 青少年ピースボランティア育成事業

青少年が被爆の実相や戦争について学び、さまざまな視点から平和について考え、行動することにより、被爆体験の継承と平和意識の高揚を図る。

なお、本事業は、平成 14 年から実施されている。

① 対 象：15 歳（中学生除く）以上 30 歳未満の青少年

② 登録者：163 人（令和 2 年 3 月 31 日現在）

（内訳：高校生 62 人、大学生 78 人、専門学校生 6 人、社会人 17 人）

③主な事業内容

- ・平和学習（月 1 回程度）：被爆の実相や平和に関する諸問題の学習
- ・青少年ピースフォーラムへの参加及びその準備
全国の青少年との参加型平和学習における進行や被爆建造物等めぐりのガイド
- ・平和祈念式典や市民大行進等平和関連行事でのボランティア活動
- ・自主企画事業の実施（市内学校への平和学習など）

・派遣研修

平和関連施設見学、交流、現地の若者との意見交換

鹿児島派遣 令和元年12月14日(土)～15日(日)

広島派遣 令和2年2月8日(土)～9日(日)

・新型コロナウイルス感染拡大により、3月14日(土)の学習会を中止した。

ク 青少年ピースフォーラム

毎年8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する平和使節団の青少年と地元長崎の青少年とが一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図る。

これまでも協会と共催で開催しており、青少年ピースボランティアがホスト役となり事業を運営していることから、青少年ピースボランティア事業とは切り離せない事業である。なお、本事業は、平成5年から開催されている。

① 日 時：令和元年8月8日(木)～9日(金)

② 場 所：平和会館ほか

③ 参加者：自治体派遣の使節団	485人	(内引率者等113人)
青少年ピースボランティア	67人	
少年平和と友情の翼	23人	<u>合計575人</u>

④ 内 容：

- ・被爆体験講話
- ・参加型平和学習(被爆の実相を学び、平和の尊さについて考える)
- ・原爆資料館周辺の被爆建造物等めぐり
- ・平和祈念式典への参列、交流会

ケ 青少年平和交流(少年平和と友情の翼)

市内の中学生を対象とした、沖縄の戦跡や平和関連施設の見学、那覇市の中学生との交流や双方の戦争被害について伝え合うなど、「学び、伝える」研修を行う。

なお、研修リーダーとして青少年ピースボランティアが参加し、事前・事後学習などの補助を行うことで、若者間の連携を進めるとともに、次世代の育成を図るもので、3年に1回実施されている。

① 派遣場所：沖縄県

② 派遣期間：令和元年8月16日～18日(2泊3日)

③ 派遣者：市内の中学生30人(公募)、ピースボランティア6人、
看護師1人、引率2人

④ 研修内容：事前研修：令和元年7月7日(日)

- ・長崎原爆被害の学習、説明資料の作成
- ・沖縄戦の学習

- ・意見交換会の企画、準備
- ・青少年ピースフォーラムへの参加

派遣研修：令和元年8月16日～18日（2泊3日）

- ・平和関連施設等の見学
- ・沖縄戦の講話聴講
- ・長崎原爆の被害についての説明
- ・那覇市の中学生との交流及び意見交換

報告会：令和元年8月22日（木）

- ・平和学習発表会にて市内中学生に報告

2 長崎原爆資料館運営事業（原爆・平和総合案内業務）

長崎市から原爆資料館展示室の観覧料徴収及び受付案内の業務を受託し、原爆資料館の運営の一翼を担うとともに、原爆資料館を訪れる世界の人々に核兵器の脅威を広く伝え、平和意識の高揚・醸成を図った。

なお、令和元年9月1日から指定管理者に移行したために、本事業は廃止した。

(1) 原爆資料館入館者数の推移

年 度	総入館者数 (うち修学旅行)	対前年度増▲減	摘 要
平成 27 年度	743,745 人 (233,736 人)	71,824 人	被爆 70 年
平成 28 年度	684,176 人 (195,831 人)	▲59,569 人	熊本地震
平成 29 年度	705,314 人 (218,221 人)	21,138 人	
平成 30 年度	678,347 人 (210,446 人)	▲26,967 人	
令和元年度	692,823 人 (207,003 人)	14,176 人	

※令和元年度の原爆資料館入館者数は、年度合計を記載している。

3 長崎原爆資料館図書資料収集整理事業

長崎市から原爆資料館図書室における資料収集整理事業を受託し、専任の司書を配置し、原爆・平和に関する図書・資料の整理・選定、情報発信を行うことにより、原爆資料館を訪れる来館者に対して、平和意識の高揚・醸成を図った。

なお、令和元年9月1日から指定管理者に移行したために、本事業は廃止した。

4 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館は、原子爆弾による死没者を追悼し、永遠の平

和を祈念する施設である。平成 15 年 7 月の開館以来、国（厚生労働省）から当協会が施設の管理及び事業運営を受託している。追悼平和祈念館内では死没者を追悼するほか、被爆関連資料・情報の収集・提供、海外原爆展、被爆医療を中心とした国際協力・交流事業を実施し、核兵器廃絶と平和意識の高揚・醸成を図った。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として、令和 2 年 2 月 29 日から 3 月 31 日まで臨時休館とした。

(1) 追悼平和祈念館入館者数の推移

年 度	総入館者数	対前年度増▲減	摘 要
平成 28 年度	132,069 人	▲5,574 人 (▲4.0%)	熊本地震
平成 29 年度	134,010 人	1,941 人 (1.5%)	
平成 30 年度	139,105 人	5,095 人 (3.8%)	
令和元年度	147,467 人	8,362 人 (6.0%)	2/29～3/31 臨時休館

(2) 追悼平和祈念館の主な事業（令和元年度）

- ① 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開及び死没者名簿の保管
 - ・令和元年度：329 人
- ② 被爆体験記等の収集・整理・公開
 - ・令和元年度：124 人
- ③ 被爆体験記の執筆補助
 - ・令和元年度：56 人
- ④ 企画展の開催（収集した被爆体験記等の展示・公開）
 - ・第 9 回企画展「女性たちの原爆」
 - 平成 31 年 1 月 30 日～令和 2 年 3 月 31 日
- ⑤ 被爆証言映像等の制作
- ⑥ 被爆体験記等の多言語化
 - ・英語・中国語・韓国語等への翻訳、インターネットでの公開
- ⑦ インターネット会議システムによる平和学習・交流
 - ・ピースネット：令和元年度 21 回実施
- ⑧ 修学講習の実施（追悼平和祈念館内における被爆体験講話）
- ⑨ 海外原爆展の開催
 - ・アメリカ オーランド市の 2 会場で開催
 - バレンシアカレッジ イーストキャンパス：10 月 7 日～10 月 11 日
 - オーランド公共図書館：10 月 14 日～11 月 2 日
- ⑩ 外国語講座の開催（平和ボランティア育成外国語講座：英語・中国語・韓国語）
 - ・令和元年度：英語 17 人、韓国・朝鮮語 14 人、中国語 9 人が修了
- ⑪ 被ばく医療関連情報の収集・整理・提供、被爆者健康講話の開催
 - ・令和元年度の被爆者健康講話：9 回（※祈念館休館に伴い 3 月開催分は中止）
- ⑫ 国際協力・交流プログラムの実施（アジアの若者による平和ネットワーク構築）

- ・令和元年度：マレーシア 7 人、韓国 5 人の若者らと交流
- ⑬ 国際平和祈念祭 (Nagasaki Love & Peace Message) の開催
 - ・話題の映画 2 作品の上映、永遠の会ほかによる朗読劇
 - ・令和元年度：12 月 15 日に実施
- ⑭ 被爆体験記の朗読
 - ・被爆体験記を語り継ぐ「永遠（とわ）の会」の派遣、朗読会の開催
 - ・令和元年度：常駐朗読 174 回、定期朗読会 14 回、派遣朗読 98 回、朗読劇等 1 回（※祈念館休館に伴い令和 2 年 2 月 28 日までの回数）
- ⑮ 家族・交流証言者等派遣
 - ・家族・交流証言者および永遠の会の長崎市外への派遣 177 回
 - 海外：マレーシアのクアラルンプール市内の大学や高校など 6 回
- ⑯ 平和関連情報の収集・整理・提供、平和へのメッセージ収集

5 収益事業（図書等販売）

平和推進事業の実施に必要な自主財源を確保するために、原爆資料館内で原爆に関する書籍や平和グッズを販売する売店を 8 月 31 日まで運営した。

9 月 1 日からは原爆資料館の指定管理者制度の導入に伴い、委託契約での販売を行った。現在、協会ウェブサイトでの通信販売に力を入れている。

6 法人の管理運営に係る費用（法人会計）

社会保険労務士、税理士等の専門家から助言を受けて、法人運営を的確に運営するとともに、法人の理事会、評議員会、各種委員会等を開催した。

（附属明細書）

令和元年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので作成しない。